

これらの指標は、

- (1) 質的な指標
- (2) 特別な容貌の指標
- (3) 欠如の指標

の三つの領域に分けて整理される。

このなかで特別な容貌の指標というのは、子どもが描く人物画には普通あまりみられないものである。

欠如の指標というのは、その年齢の子どもの人物画には「期待しうる項目」として、当然出現するはずでありながら、しかも欠如しているものである。

- ① 採点方法 右の例2図において期待項目では、口と胴がないのでー2となり、異例項目では該当項目がない。
H・F・D得点 $-2 + 0 + 5 = 3$ となり、知能水準は平均下である。

表9 発達項目一覧表

1. 頭：はっきりした輪郭を描いている	19. 指：腕や手と区別され、指と認められる
2. 目：目と認められる	20. 正確な指の数：片手に5本ずつある
3. 瞳：目と輪郭の中に、円または点をはっきり描いている	21. 脚：脚を表現している、脚を描いていなくても、スカートなどで十分に脚を相応できる
4. まつ毛とまゆ毛：どちら一方、または両方描いている	22. 両脚：両方の脚を一つ以上の線で描いている
5. 鼻：鼻と認められる	23. ひざ：はっきり角度をついている、または、ひざ小僧をはっきり描いている
6. 鼻孔：鼻の輪郭に加えて、鼻孔にみえる点を描いている	24. 足：足と認められる
7. 口：口と認められる	25. 両足：かかとから一方に広がり、高さより長さが認められる、または、前からみると、遠近法を用いて描いている
8. くちびる：上下二つの輪郭をはっきり描いている	26. 横向き：全身を、または、頭だけ横向きに描いている
9. 耳：耳と認められる	27. 衣服（0かつ1）：はっきりした衣服表現がないか、また、帽子、ボタン、ベルト、衣服の輪郭のうちの一つだけ描いている
10. 髪：髪と認められる、または帽子をかぶって髪を隠していると認められる	28. 衣服（二つか三つ）：次のもののうち二つか三つ描いている。ズボン、スカート、シャツ、ブラウス（ベルトで区分するツーピースの上部分はブラウスとみとめる）、コート、帽子、ヘルメット、ベルト、ネクタイ、髪リボン、髪飾り、ネックレス、腕時計
11. 首：頭と身体の間に、はっきり区分して描いている	29. 衣服（四つ以上）：上の項目を四つ以上描いている
12. 胸体：輪郭をはっきり描き、胴体と認められる	30. 均整のとれた描画：みた目に均整がとれている、生物学的に正確であるかどうかは問わない
13. 腕：腕と認められる	
14. 両腕：1本以上の線で描いている	
15. 下に下がった腕：片腕または両腕が水平から30度以上下がっている	
16. 肩に正確についた腕：肩をはっきり表現し、そこに、しっかり腕がついている	
17. ひじ：はっきり角度をついている	
18. 手：腕や指と、はっきり区別でき、腕より広くなっている。または腕時計や腕輪などによって腕と区別している	

表10 情緒指標一覧表 () 内の年齢以下のときは、情緒指標として認められない。

I 質的な指標	11. 寄り目（両目とも内がわ、または、外がわに向いている横目はスコアされない）
1. 人物の各部分の不統合（男7歳、女6歳）	12. 歯
2. 顔に陰影をつける 顔全体の、一部分を陰で覆う そばかす、麻疹の斑点を含む 皮膚の色を示すため、顔や手を軽く陰をつけるのは、スコアされない	13. 短い腕（腰にまでとどかない）
3. 胸体に陰影をつける（男9歳、女8歳）	14. 長い腕（ひざまでとどく）
4. 手か首に陰影をつける（男8歳、女7歳）	15. 胸体の脇についた腕（腕と腕と間隔がない）
5. ひどく非対称な四肢（手足） 双方の腕や脚の形が著しく違っている 形が同じであれば、大きさは不揃いでも、スコアされない	16. 大きい手（顔と同じくらいか、それよりも大きい）
6. 15度以上傾いている人物	17. 手や指のない腕（背後か、ポケットに隠された手はスコアされない）
7. 小さな人物（5センチ以下）	18. くっついた脚（両腕の間の間隔なし、また、横向きの描画では、一つだけの脚）
8. 大きい人物（23センチ以上）	19. 性器（写実的なもの、また、象徴化されていてもはっきりとしたもの）
9. 透視画 身体の大部分か、手足をつつむ透視画1本の線や、身体を横切1本の線や、身体を横切る腕はスコアされない	20. 怪物、あるいは、グロテスクな人物
II 特別な容貌の指標	21. 自発的に3人以上の人を描く
10. 小さな頭（全身の10分の1の小さい頭）	22. 雲、雪、雨、飛んでいる鳥
	III 欠如の指標
	23. 目の欠如(完全に目がない)
	24. 鼻の欠如(男6歳、女5歳)
	25. 口の欠如
	26. 胸体の欠如
	27. 腕の欠如(男6歳、女5歳)
	28. 脚の欠如
	29. 足の欠如(男9歳、女7歳)
	30. 首の欠如(男10歳、女9歳)

○器質的徵標では、胴の欠如、水平の腕、手の欠如、棒状の脚、四肢の非相称、手の切斷がチェックされ、脳損傷のあることをはっきり示している。

○情緒指標では、胴の欠如、短かい腕、手の欠如、怪奇像、四肢非相称、傾斜がチェックされ、脳損傷児であり、内向性と情緒不安をはっきり示している。

例2



氏名	W・C	性別	男
年齢 学年	6歳8ヶ月 小1	I・Q	WISC 69
主訴	落ちつきがなくて困る		
H·F·D 所見	脳損傷児の典型的な描画である。コピック法による分析では、胴の欠如、棒状の脚、四肢の非相称など器質的徵標のほとんどがみられる。		